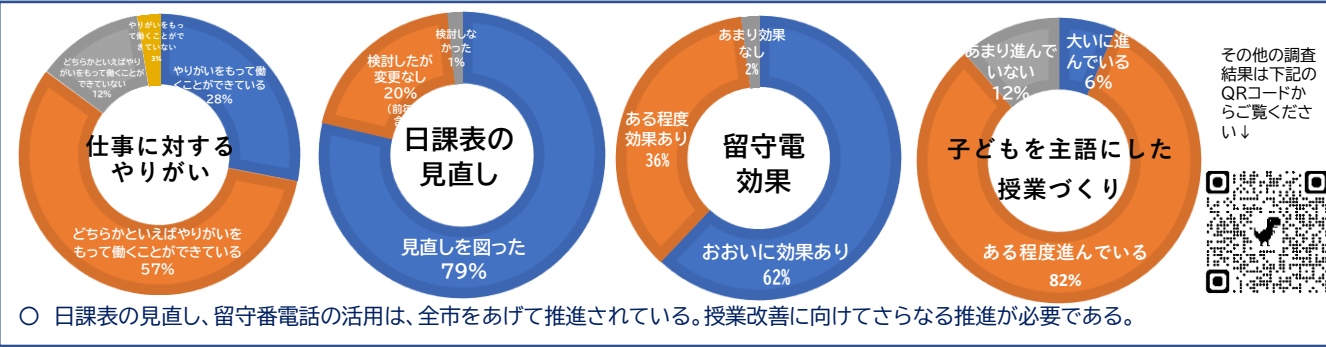


令和6年度の取組状況



教職員の時間外在校等時間 月45時間以上の実態 ※技能主事を除く

| 学校種    | R5    | R6    | ポイント減    |
|--------|-------|-------|----------|
| 小学校    | 20.7% | 18.2% | 2.5ポイント減 |
| 中・特支学校 | 29.6% | 27.0% | 2.6ポイント減 |
| 全平均    | 24.2% | 21.8% | 2.4ポイント減 |

○ 市内全平均として24.2%から21.8%へ2.4ポイント減少し、成果が現れ始めている。  
● しかし、引き続き教頭職の時間外在校等時間が長いことが課題である。

未来に向けた「10」のチャレンジ1.1

- #1 時差出勤制度の試行: 早出遅出出勤によるライフステージや子ども、学校の実情に合わせた働き方
- #2 インターバル11時間: 退勤から翌日出勤まで休息時間を11時間以上(特に教頭職)
- #3 ICTのさらなる活用: 校務DX化の推進によるさらなる業務改善  
職員会議資料等のペーパーレス化100%  
校務用端末の更新による業務効率化
- #4 教育課程の見直し: 標準時数を上限とした授業時数  
日課表の見直しの検討
- #5 授業の質的改善: 子どもを主語にした授業づくりの推進  
(教師が「教える」授業から子どもが「学びとる」授業へ)

- #6 部活動指導の負担軽減: 部活動指導員の拡充  
休日部活動の地域展開の種目拡充
  - #7 働き方改革モデル校の成果共有: 民間コンサルティングと連携し、伴走型支援によるモデル校の成果を広く共有
  - #8 企業等との連携: 民間プール施設等を活用した水泳授業の実践  
スク・サポ、ブカ☆サポなど地域(企業や市職員他)や大学等の人材の積極的活用
  - #9 評価の検討: 定期テストの在り方や評価2期制の検討
  - #10 教職員等の意識改革: 各学校の効果的な取り組みを共有  
保護者等への情報発信、理解の促進
- ※ 給食費会計処理の効率化については国の学校給食に関する動向を踏まえて対応

